

常呂川森林ふれあい推進センター

平成 29 年度 年 報

オホーツクの「森」から



発行に当たり

オホーツク地方は、世界自然遺産「知床」や網走国定公園等、自然環境に恵まれ貴重な動植物を育む地域です。

林野庁常呂川森林ふれあい推進センターは、オホーツク最大の河川である常呂川流域を中心に、自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育等に取り組む企業・団体・NPO等の活動の支援、技術指導等を行っています。

この度、平成 29 年度の主な活動内容がまとまりましたのでご覧下さい。

目 次

森林環境教育の取り組み	・・・・・・・・ 1 頁
地域との連携・普及啓発等の取り組み	・・・・・・・・ 3
自然再生・生物多様性保全の取り組み	・・・・・・・・ 9
活動区域及び所在地	

森林環境教育の取組み

第14回「オホーツクの森」ボランティア育樹



6月15日（木）、北見市、常呂漁業協同組合や9つのボランティア団体、関係機関で構成されている実行委員会（実行委員長・中島紀男）が、「ボランティア育樹」を開催し、端野小学校と常呂小学校の5年生も参加して、総勢155名でアカエゾマツ人工林の枝払いを行いました。

参加した児童のほとんどが、鋸を使うのが初めてで、ボランティア団体の方々の指導を受け枝払いを行っていました。また、午後からは森林散策等を実施しましたが、開始直後に降雨となり、予定を早めての終了となりました。

後日、両校の児童から「なぜ、枝落としを行うか、勉強になりました。」「鋸の使い方や枝の切り方がわかりました。」等の感想が届きました。

こども探検隊

7月23日（日）、森林での自然観察や遊び体験等を通じて、森林や自然の魅力の発見と併せて、森林・林業や自然の大切さを感じてもらうために、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て「こども探検隊」を行いました。

まず始めに、初めて会った子どもたちが、仲良くなるためのゲーム「アイスブレイク」を行った後、2グループに分かれて行動開始です。

森林探検では、ジャンケンや早口言葉、双眼鏡を使った動物カード探し等にチャレンジしました。その後、昼食まで川遊びをしたり、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力で設置した、ブランコやハンモックを楽しみました。

午後からは、カラマツのマツボックリでフクロウを作成したり、木の枝を使ったパチンコを作成したところ、子どもたちはできあがったパチンコを手に的当てに夢中でした。

今回の「こども探検隊」では、送迎の保護者の方を対象として、花炭の作成や森林散策等を行ったところ大変好評でした。



キッズ・チャレンジクラブ



7月15日(土)、遠軽町生田原教育センターが主催する「キッズ・チャレンジクラブ」の活動を支援しました。

この催しは、遠軽町生田原地域の子どもたちが、体験活動や異世代間の交流を通して、協調性や社会性を養うことを目的として行われているものです。

当日は、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て、年長から中学生までの29名の子どもたちが5班に分かれて、森で、川で、自然の中で、森林探検やクラフト作り等を楽しみました。

森林探検は、子どもたちだけのグループで、ジャンケンやクイズ、双眼鏡を使った動物カード探し等、5つの問題が出されていましたが、上級生が下級生をしっかりとサポートして、課題をクリアしていました。

午後からは、木の枝を使ったパチンコ作りを行い、子どもたちは枝に輪ゴムを付けるのに苦労していましたが、できあがったパチンコを手到的当てに夢中でした。

当日は、気温が今夏最高の36.9℃となり熱中症が心配されましたが、子どもたちは元気いっぱい「オホーツクの森」を遊び回り、予定時間を繰上げた13時30分に帰路につきました。

この取組みは、今年度で3年目となりますが、今後も内容の工夫と新たな趣向で、連携していきたいと考えています。

フィールド見学・意見交換会

「フィールド見学・意見交換会」は、森林ふれあい業務に携わる職員のスキルアップと情報共有等を図ることを目的として、平成22年度から北見地区の森林管理署等の職員を対象に実施しています。

今年度は、9月21日(金)に開催したところ9名の若手職員の参加があり、当センターの自然再生指導官等が、自然観察とネイチャーゲームの要点、森林環境教育の取組事例や体験学習を実施する際の注意事項等を解説し、意見交換を行いました。



地域との連携・普及啓発等の取組み

【地域と連携した取組み】



ネイパル北見（北海道立青少年体験活動支援施設）



こどもまつり

4月30日（日）、ネイパル北見で「こどもまつり」が開催されました。

この催しは、親子連れらが大勢訪れるネイパル北見の人気行事で、教育関係機関やボランティア団体等が協力・出展しています。

当日は、室内では風船で子犬をつくるバルーンアートやアロマローソクづくり等の体験コーナー、ステージでは紋別市の子どもたちによる一輪車の演技等が行われました。また、野外ではパン生地を棒に巻付けて炭火であぶる、野焼きパン体験が行われていました。

当センターでは、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て、木工クラフト、枝笛づくり、竹とんぼづくり等を行いました。



北海道農政事務所北見地域拠点（農林水産省）

夏休みこども見学デー

7月27日（木）・28日（金）、北見市立東小学校の体育館を会場に、「夏休みこども見学デー」が行われ約250名が来場しました。

この催しは、北海道農政事務所北見地域拠点と国有林（網走南部森林管理署、網走中部森林管理署、常呂川森林ふれあい推進センター）が、農林水産業への理解を深めてもらうことを目的に行ったもので、当日は、ヒンメリ作りやタマネギでの染色、農産物のパネルクイズ等が行われ、当センターは、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て、木工クラフトと竹とんぼづくり等を行いました。

開催期間中に行われたアンケート調査では、「体験コーナーで、面白かったのは何ですか？」の問いに、「竹とんぼ・木工クラフトづくり」が59%となり大好評の結果となりました。



オホーツクみどりネットワーク

オホーツク森林フェスティバル

7月29日（土）・30日（日）、網走市のこまば木の広場で、第4回「オホーツク森林フェスティバル」が行われ約450名が会場を訪れました。



これは、「オホーツク森林フェスティバル」実行委員会が、森林の魅力に触れながら、みどりを守り、みどりに親しむことを目的に行ったもので、「オホーツクみどりネットワーク」に加盟するボランティアや民間団体、関係行政機関等が参加しました。

当センターは、マツボックリのクラフトや枝笛作り、種飛ばし（ロケットラウン）等を行い、中学生が枝笛を作ろうと列を作って並び好評でした。

東部森林室（北海道オホーツク総合振興局）

「山の日」記念森林散策会

8月26日（土）、森林環境と眺望に優れ人々に親しまれている仁頃山国有林で、オホーツク総合振興局東部森林室と国有林（網走中部森林管理署、常呂川森林ふれあい推進センター）が共催で、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て、仁頃山散策会を開催しました。

当日は24名が参加し、旧北見市の最高峰829mの頂上を目指すチャレンジコース（登山）と植物等を観察しながら5合目を目指すのんびりコース（散策）の二つのコースに分かれ、富里湖森林公園駐車場を出発しました。

出発直後に、通り雨が降りましたがその後は晴天となり、のんびりコースでは、キツリフネ、イケマ、ヨツバヒヨドリ、アカミノルイヨウショウマ、トリカブト、ハンゴンソウ、キンミズヒキ等を観察し、スタッフから植物の生きるための知恵や工夫等の説明を受けながら、2時間30分で目的地に到着しました。また、チャレンジコースは、1時間30分で目的地の頂上に到着すると、360°のパノラマに歓声が上がりました。

参加者からは、「日頃の運動不足を実感。」「次回は頂上を。」また、「とっても、楽しかった。」等の声があり、「山の日」の趣旨である「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。」ことが実感できた一日となりました。





「オホーツクの森」森林散策会

10月21日（土）、網走市農政課が主催する「オホーツクの森森林散策会」が行われ活動を支援しました。

この催しは、木を身近に利用することで、木や森の存在を身近に感じ、自然とともに生きることについて学ぶ機会を増やすため、木育の一環として行っているもので、網走市民12名の参加がありました。

当日は、「オホーツクの森」の展望台から網走湖や能取湖・知床連山を眺望するとともに、植物や動物・土や水等が、相互に関わりを持って成り立っている様子が見られる「古の森」の遊歩道を1時間30分かけて散策しました。参加者からは、「紅葉がきれいだった。」や「オホーツクの森について勉強になった。」等の感想がありました。



【ボランティア団体の活動支援】



秋の森林散策会

10月1日（日）、「オホーツクの会」が主催する「秋の森林散策会」が、遠軽町の「山彦の滝・鹿鳴の滝」で行われ活動を支援しました。

「鹿鳴の滝」入口からは、大きな岩がゴロゴロ、加えて足を踏み入れる人も少ないと思われる散策路ということもあり、参加者の「ここは一人では来られない」等という声も聞きながら、ゆっくりと歩くこと30分、「鹿鳴の滝」に到着しました。周辺には、コケやシダ類（クジャクシダ、ジュウモンジシダ他）が繁茂し、「まるでジブリの世界（もののけ姫？）」を思わせるようです。

次に、「山彦の滝」に向かって歩道を進むと、周囲の天然林には一抱え以上ある、トドマツ・エゾマツやシナノキ・ハリギリ等がたくさんありました。また、エゾシカの皮剥ぎやヒグマの爪痕、キツツキ類の食痕等が見られ、野生生物の営みを身近



に感じながら、およそ500m・・・水の音が聞こえてきました。「山彦の滝」に到着です。高さ28mの瀑布に加え、「裏見の滝」とも呼ばれているように、滝の裏側から見ることもできます。

参加者からは、こんな滝を身近に見ることができるなんて「すご〜い！」と歓声が上がり、マイナスイオンを全身で浴びました。

オホーツク森の案内友の会

夏の自然観察会「ノンノの森」散策

6月24日(土)、「オホーツク森の案内友の会」が主催する「夏の自然観察会」が、津別町の「ノンノの森」で行われ活動を支援しました。

当日、出発地の北見は雨模様で開催が心配されましたが、「ノンノの森」は曇り空で、「清流の道」を約2時間かけて散策しました。

散策コースには、倒木更新やトドマツの凍裂等が見られるとともに、足元にはエゾノレイジンソウ等の花やいろいろな植物があり、参加者は当センター職員の解説に熱心に聞き入っていました。

午後からは、クリンソウが群生する「こもれびの道」の散策が行われ、14時には「ノンノの森」を後にしました。



この他、当センターでは次の行事へ参加して、地域と連携した取組み、ボランティア団体の活動支援・技術指導等を行っています。

オホーツクみどりネットワーク

4月25日(火) 全体会議



全体会議

ネパール北見

8月9日(水)～10日(木) サマーフェスタ

道民森づくりネットワーク実行委員会

9月10日(日) 道民森づくりネットワークの集い



サマーフェスタ

網走中部森林管理署

9月15日(金) ワッカ原生花園環境整備

東部森林室(北海道オホーツク総合振興局)

10月18日(火) 木育・森林環境教育意見交換会

コープ^{あした}未来の森づくり基金

1月27日(土) 北海道の森づくり交流会



ネットワークの集い

森林ボランティア「オホーツクの会」

2月25日(日) 冬の自然観察会



冬の自然観察会



北海道の森づくり交流会



意見交換会



ワッカ原生花園環境整備

【普及啓発の取組み】

「緑の募金」街頭募金キャンペーン

4月24日（月）、緑化に対する理解と認識を深め、森林の整備及び緑化の推進を図ることを目的として、「緑の募金」街頭募金キャンペーンが行われました。

これは、北見市の「緑の募金」活動の出発式と併せて行われているもので、主催者である「緑と花の市民の会」の渡部会長のあいさつと来賓の北見市長のあいさつの後、8団体・約70名がJR北見駅前から2条通に分かれて募金活動を行いました。

風が冷たく、少し肌寒い中での活動でしたが、「よろしくお願います。」との呼びかけに、多くの市民に快く応じていただきました。



森林へおいでよ！パネル展

5月17日（水）～21日（日）、北見市「緑のセンター」で、当センターと森林ボランティア「オホーツクの会」の共催により、「オホーツクの森」をPRしました。

このパネル展は、北見園芸協会の実施する「春の園芸祭」に合わせて行っているもので、会場では園芸協会による球根や庭木類等が販売やきたみ盆栽・山野草同好会による「盆栽・山野草春の展示会」も催され、多くの来館者が訪れました。

当センターと「オホーツクの会」では、それぞれの活動を紹介するパネルを展示するとともに、「オホーツクの会」の会員が作ったクラフト作品や炭焼き体験で作った化粧炭等も展示しました。

また、20日（土）と21日（日）には、竹とんぼや枝笛作り、マツボックリ等を使った木工クラフト、緑ヶ丘公園の散策会等を行い、森林の役割やすばらしさをPRしました。

クラフト体験では「昨年も作らせてもらって、玄関に飾っています。」「森にある材料だけで、こんなに楽しめるんですね。」「かわいいイヌができました！。家に飾ります。」等の感想がありました。

大人限定の枝笛作りでは、ドリルでの穴空けを失敗したり、音が出ずに苦労していましたが、「ピー！」という音がでた瞬間の喜びと驚きの顔が印象的でした。



森林の魅(味)力を感じよう！

5月28日(日)、平成28年から国民の祝日となった「山の日」の制定の趣旨である、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。」をテーマとし、山菜アドバイザーの工藤森生氏を講師としてお招きして行いました。

工藤講師からは、「山菜採取は欲との闘いであり、『たくさん採りたい(物欲)』、『他の人に知られたくない(独占欲)』、等を捨て去ることが大切。自分で食べる分だけを丁寧に採取することで調理も楽であり、新鮮な山菜はアクも少なくおいしく食べられる。」との話がありました。

その後、「森の家」の周辺でタンポポ、ヨモギ、ヨブスマソウ、セリ等の食べられるもの、クサノオウ、バイケイソウ、エゾノレイジンソウ等の食べられないもの(毒草)を学びながら試食用の山菜を採りました。

試食タイムでは、採りたてのウド・ミツバ・ヨモギ・ヨブスマソウ・クサソテツ等を塩を入れたお湯でシャブシャブし、マヨネーズや味噌等のタレで「山菜シャブシャブ」を食するとともに、そのお湯で茹でたパスタをオリーブオイルと塩こしょうで味付けした「山菜パスタ」を堪能しました。



「ヨブスマソウは、初めて食べたけど食感が最高！」や「タンポポ(花)のシャブシャブは、色もきれいでおもしろい。」「今日の夕食は山菜パスタ。」等の声が聞こえました。

【広報活動】

これまで当センターでは、イベントの案内や「オホーツクの森」の自然情報等をホームページに掲載してきましたが、情報提供の充実を図るため、平成27年4月から広報誌「森(モリ)・盛(モリ)・オホーツク」を発行しています。

このタイトルには、「森のことを盛りだくさんに伝えたい。」という思いとその決意が込められており、そして、オホーツクの地域が、読んでくれた人々が、元気モリモリになれば、との思いも込められています。

今年度はNo18～No24を発行し、当センターの活動をPRしましたので、是非、ご覧下さい。

「森(モリ)・盛(モリ)・オホーツク」http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/morimori.html



自然再生・生物多様性保全の取組み

自然再生モデル事業企画運営協議会



10月26日（木）、今年度第1回目の「オホーツクの森」企画運営協議会を開催し、今年度の活動結果や今後の取組み等について検討しました。

今回は、自然再生の取組みで「ボランティア団体が一堂に会して活動する機会について、どのように設けていくか。」がテーマとなり、「樹種転換エリア」での間伐跡地や「人工林観察エリア」の活用も考慮し、検討していくこととなりました。また、「森林ふれあいの取組みへの軸足の移行」については、より良い方向性が見込めるよう、引き続き検討して行くこととなりました。

第2回目は3月頃を予定しており、次年度の活動予定等を検討する予定です。

オホーツクの^{もり}森林づくり

9月2日（土）、「オホーツクの森」で、当センターと森林ボランティア「オホーツクの会」との共催、「オホーツクの森」自然再生モデル事業企画運営協議会の後援で開催したところ、7名の参加がありました。

これは、これまで「自然再生モデル林」に植栽した広葉樹の手入れを通じて、その生長を確認するとともに「オホーツクの森」を散策し、自然再生モデル事業や森林の働き等の理解を深めることを目的としています。

当日は、植栽木の場所がわかるように標示杭の設置や植栽木がササに覆われないように刈出し等を行いました。また、午後からは平安遊歩道で森林散策を行いました。また、森林散策等のストレス解消効果を確認するため、集合時と終了時に唾液中のアミラーゼ濃度を調査し比較したところ、参加者の半数以上のアミラーゼ濃度が低下し、本日の植栽木の手入れと森林散策が、ストレス解消につながったようです。

なお、植樹木は参加者の皆様の手入れにより、年々、生長しています。



【野生生物自動撮影調査】

当センターでは、平成20年8月から「北海道野生生物観測ネットワーク」に参加し、国立研究開発法人森林総合研究所北海道支所から技術支援を受けて、「自動撮影装置による中大型ほ乳類の調査」を実施しています。

この調査は、撮影頻度という量的なデータに基づいて、中大型ほ乳類の生息動向を探る試みで、赤外線感知装置付きのデジタル式自動撮影カメラを道路沿いに設置し、野生生物が装置の前を通ると24時間、自動的に撮影されます。当センターは「オホーツクの森」で6箇所、撮影・データ収集を行っており、処理したデータは森林総合研究所北海道支所へ提供し共有しています。

今年度は、7月3日～24日（21日間）、8月21日～31日（10日間）、9月14日～25日（11日間）及び10月2日～23日（21日間）の4回実施し、撮影された野生生物は、エゾシカが44回、キタキツネが198回、エゾタヌキが217回、クロテンが4回となっており、キタキツネとエゾタヌキの撮影頻度が高くなっています。

また、エゾリスが31回、コウモリ類4回、ネズミ類1回、キジバト2回、トラツグミ1回、ヤマシギ1回、不明鳥獣2回が撮影されており、合せて505回撮影されました。

当該調査地では、アライグマ等の生態系に影響を及ぼす野生生物は撮影されていませんが、今後も森林総合研究所北海道支所から技術支援を受けながら調査を継続し、森林の変化や野生生物の生息動向を注視していきたいと考えています。

なお、「北海道野生生物観測ネットワーク」のホームページでは、道内各地の観測結果を見ることができます。（<http://cse.ffpri.affrc.go.jp/hiroh/wildlife-monitoring/index.html>）



エゾタヌキ（平成29年7月撮影ポイント6）



クロテン（平成29年8月撮影ポイント1）



エゾシカ（平成29年9月撮影ポイント6）



エゾリス（平成29年9月撮影ポイント6）

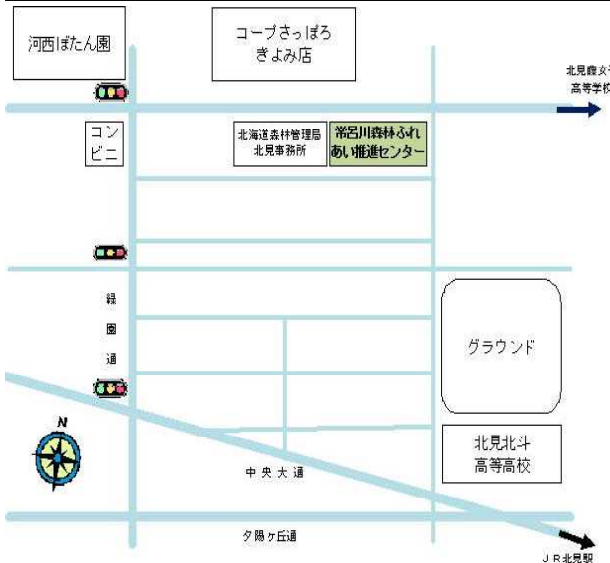


キタキツネ（平成29年10月撮影ポイント3）



キジバト（平成29年10月撮影ポイント3）

活動区域及び所在地



JR 北見駅から
 北海道北見バス「緑が丘線」に乗車し、「消防署前」で下車。徒歩約3分
 または、北海道北見バス「美山線」に乗車し、「清見中央」で下車。徒歩約5分

お車でお越しの方
※網走方面から
 国道39号をJR北見駅前まで右折し直進。NHK北見放送局手前を右折し、北見北斗高校右横を進み、コープさっぽろ「きよみ店」の向かい
※旭川方面から
 国道39号を栄町3丁目交差点で緑園通へ左折し直進。花月町6丁目交差点を右折し、コープさっぽろ「きよみ店」の向かい



林野庁 北海道森林管理局
<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

常呂川森林ふれあい推進センター

〒090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11の3
 【TEL】0157-23-2960 【FAX】0157-26-2144

http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/index.html

